学生番号:14105458	クラス:C	氏名:馬場　基	提出日:2009 年 1 月 14 日
論題	ブックカバーが消費者に与える影響 ～ブックカバーと書店の相関関係～		

【 キーワード 】 ブックカバー、書店、消費者態度、評価、ブックカバーと書店の相関、

【 論文要旨 】

本論文の目的は、ブックカバーへの態度と書店への態度とが相関関係にあるのかを明らかにしていくことである。書店での購入の際に必ずといってよいほど店員から声をかけられる。それは「カバーをおかけいたします」の一言だ。このことから本研究は始まった。

まず、読書の割合や、書籍の購入場所、年代別の書籍の購入率を紹介しながら、本論文のテーマである、書店とブックカバーに迫っていく。問題意識を立てた後に、ブックカバーについて触れ、その歴史を少し紹介しつつ、書店業界の現状についてみた後に、以上のことを交えながら、言及していき、そして本論文の研究目的へと流れていく。本論文の研究目的は「ブックカバーが消費者に与える影響を明らかにする」である。ブックカバーが消費者にどのような影響を与えうるのかを見ていく。本論文は、分析結果から得られたことをもとに仮説を構築する、仮説発見型の形を取っている。そして、どのような調査を行うのか、どのような分析を行っているのかについて、詳しく述べている。予備調査と本調査の概要を図表としてまとめ、どのような流れでのアンケートなのかを細かく記してある。その後で分析について紹介しているが、今回は、t 検定、単回帰分析、因子分析の 3 つの分析を使用している。その後で、分析結果から得られたことをもとに仮説を構築している。分析結果から構築した仮説は以下の 2 点である。

① ブックカバーを付けてもらっている人の方が、ブックカバーを付けてもらわない人よりも、ブックカバーと書店への態度が強い。
② ブックカバーへの態度と書店への態度とは相関関係にある。

以上の2 点の仮説が立証された上での考察を行っている。ブックカバーを付けてもらう人の方が、ブックカバーを付けてもらわない人よりも、ブックカバーと書店への態度が強く、よい評価をするはずである。また、ブックカバーへの態度と書店への態度が相関関係にあると立証されたならば、ブックカバーを付けたほうが、書店への態度を強く持ち、書店業界にとっては、書店離れとならないですむ。このことは、書店業界にとって、書店への態度が強いという状況はありがたい状況であると考えられる。

最後に、本論文の問題点と限界点について触れ、本論文を締めくくっている。